
一般社団法人 日本リスク研究学会 第29回シンポジウム

『 社会の中の「地震リスク」: どう解釈し、どう伝え、どう活用すべきか 』

日時 : 2016年6月30日(木) 第一部 14:00-17:15 第二部 17:30-19:30 (予定)

場所 : 東京大学本郷キャンパス山上会館大会議室

http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_00_02_j.html

主催 : 一般社団法人 日本リスク研究学会

開催趣旨 : 地震リスクは、「30年以内に70%」といった確率、南海トラフ大地震や首都直下型地震という特定のシナリオ、建造物が耐震基準を満たしているかどうかや土地が液状化しやすいかどうかといった定性的な情報、ハザードマップなどの色分けされた地図、など、様々な形で示される一方、「日本に住む以上、いつどこで大地震が起きてもおかしくない」とも言われます。こうした「地震リスク」に関する多様かつ断片的な情報は、それぞれが根拠をもっている、いったん社会の中に出ていくと、数字が一人歩きしたり、適切でない解釈につながったりして、地震リスクの過小評価あるいは過大評価につながります。また、専門家は、マスメディアの取材に答える形で様々な予測や見解を示すことはあるものの、不確実性を伴う「地震リスク」に関して、社会にどこまで踏み込んだ見解を発信すべきかについてはまだ十分整理されていません。本シンポジウムでは、地震学(ハザード)、建築学(脆弱性)、心理学(認知・行動)、メディア(伝達)の4名の専門家を招いて、「地震リスク」、あるいはそれを構成する様々な要素、についてどう解釈し、どう伝え、どう活用すべきかについて、それぞれの専門分野から講演していただき、最後にそれらに基づいて広くディスカッションを行う予定です。

参加費 : 第一部 シンポジウム : 会員(協賛学会含む) 1,500円(学生500円)、一般2,500円(学生1,000円)

第二部 意見交換会 : 会員(協賛学会含む) 3,000円、一般4,000円、学生1,500円
(立食代を含む)

プログラム

第1部 シンポジウム

14:00 あいさつと趣旨説明

岸本 充生(日本リスク研究学会理事、東京大学公共政策大学院)

14:10 講演1 (メディアの視点から)

黒沢 大陸(朝日新聞社)

14:30 講演2 (建築学の視点から)

神田 順(日本大学理工学部建築学科)

14:50 講演3 (地震学の視点から)

瀬藤 一起(東京大学地震研究所災害科学系研究部門)

15:10 講演4 (心理学の視点から)

広田 すみれ(東京都市大学メディア情報学部)

15:30 休憩

15 : 40 パネルディスカッション

司会：竹田 宜人（製品評価技術基盤機構化学物質管理センター）

パネリスト：上記講演者

17 : 00 まとめと閉会挨拶

新山 陽子（日本リスク研究学会会長、京都大学農学研究科）

※本シンポジウムに関する最新の情報は、学会 HP<<http://www.sra-japan.jp/cms/>>に掲載いたします。

お近くの関係者にもお声をおかけ下さい。皆様のご参加をお待ちしております。

【お申し込み・お問い合わせ先】

- ① お申し込み：同封の用紙により、会員区分・参加区分（第1部・第2部）をご連絡ください。
【お振込先】郵便振替口座： 00120-0-330322 （加入者名：一般社団法人 日本リスク研究学会）
<6/28〆切。事前に申し込んでいただくと受付がスムーズに進みます。当日受付もあります。>

- ② お問い合わせ先：〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
日本リスク研究学会事務局 担当：木崎
E-mail: sra-japan@bunken.co.jp Tel. 03-5389-3013 Fax. 03-3368-2822